

石楠花会通信 Vol.81 (2023. 1)

新年おめでとうございます。コロナウイルス禍が終息せず当石楠花会も活動自粛を強いられ続けた一年が明け、新しい年令和5年、2023年が始まりました。

今年が皆様にとって明るい年でありますようお願い申し上げますとともに、当石楠花会そして体育会ワンダーフォーゲル部へ引続きのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

□令和4年度の体育会ワンダーフォーゲル部と石楠花会

昨年の体育会ワンダーフォーゲル部は3年、1年部員を中心とした活動を行ってきました。3月春合宿の入笠山スノーシュー合宿、春の丹沢表尾根経由塔ヶ岳合宿で体力強化を図り、南アルプス甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳への夏合宿を目標としました。合宿計画は昨年度より就任の08年次西岡監督が安全面、技術面でチェックし、従来以上に積極的に介入し、安全かつ快適な山行の実践を目指しました。

夏合宿は残念ながら甲斐駒ヶ岳、仙丈ヶ岳への登頂はできませんでした。天候悪化が直接的原因でしたが、西岡監督は現役部員の登山計画以前の、準備段階を大きな問題として指摘し改善指導しました。今後の春合宿や令和5年度の活動計画に今回の反省をぜひ生かしていただきたいと願っています。

体育会ワンダーフォーゲル部はコロナウイルス禍での3年以上の活動停止により、新入部員は入るが山に行けないという状況が続いていました。結果として自然や山岳への憧憬やモチベーションが減少、また先輩から後輩へ伝えられてきた山の技術やマナーが殆ど継承されず、現在に至っています。我々石楠花会も大学行事の中止、谷川岳虹芝寮閉鎖という状況の中、総会や交歓会が開催できず、幹事会や現役執行部との数少ないミーティングしか行うことができませんでした。

コロナウイルス禍が一段落しそうな今、成蹊大学で唯一山岳活動を行う体育会クラブであるワンダーフォーゲル部は、山岳や自然を相手に積極的活動を再開する時期を目前に迎えています。我々は現役を支援するため、監督が現役部員の力量を把握しつつ彼らに山岳や自然への憧憬を醸す指導も行い、また監督と連携し全国に散らばる若手 OGOBにも現役部員の為に動いてもらう様依頼をするなどの新しい対策を行って参りました。試合形式での舞台を持たないワンダーフォーゲル部員は、卒業までの4年間で何をやるか、部員たち自身が決めるしかありません。石楠花会は若手 OGOB が中心となって現役部員の自然への憧憬や挑戦を応援したいと思います。

□平成4年度体育会ワンダーフォーゲル部夏合宿の報告

20年次の森(現3年部員)です。2022年度夏合宿について報告します。

今回8/17~8/19の二泊三日のスケジュールを予定していましたが、諸々の理由により一泊二日となりました。実質的に1年生・3年生共に初めての合宿でした。

【経過】

1日目

初日はスケジュール通りに現地に到着しましたが、テント設置時に確認してみると、今回持ってきたテント4つの内、2つが部品入れ違いとなっており、そのままでは使用が困難でした。部員が個人で持っているテントを考えても、残りのテントで寝泊まりするのは困難だったため、使用不能の2つのテントの部品を使って1つのテントを立てました。

その後全員で楽しく夕飯を済ませ、明日の甲斐駒ヶ岳登山のために19時に就寝しました。

しかしここで、大きな問題が生じました。この日は昼から小雨が降っており、夜になるに連れて雨量は増えていったのですが、私達が寝るときには雷を伴う大雨になってしまったのです。そのため、2つのテントを組み合わせた急造テントが雨で浸水してしまい、9時頃には中で寝るのが困難な惨状となってしまいました。これに対処すべく、そのテントに入っていた3人の内、2人が部員持参のテントに入れさせてもらい、残った1人は元のテントの無事な部分に留まることになりました。

2日目

朝起床時間となり、全員一度起床しましたが、外は未だに雷伴う大雨となっており、登山が困難な状況でした。そこでしばらく待機していたのですが、一向に雨がやまなかったため、昼過ぎまではテント場で待っていることにしました。しかし待っている間、荷物の確認などをしてしていると急造テント似合った荷物である、登山リュック・寝袋・上着全てが完全に水没しており、そのテントに荷物をおいていた4人は、行動できなくなってしまったのです。それに加えて急造テントに残っていた部員の体調があまり良くなかったため、この日の登山は中止を決定し、さらに翌日の登山をどうするのか話し合うことにしました。テント場の小屋でラジオの天気予報を確認したところ山の麓では、その日の午後過ぎから晴れ、翌日も晴れという事が分かっており、3日目の仙丈ヶ岳登山も考慮していたものの、部員の体調が万全ではなかったこと午後雨も降っていた場合、部員4人のテントや寝袋、リュックが乾かせず、夜を過ごすことも翌日登山することも困難だということから、最終的に撤収することに決めました。

【反省点】

今回の反省点は、登山前に全てのテントの確認をしていなかったことです。その原因は、3年生が全員忙しく、活動している2年生も不在であったため、その間の部活の指揮が取れていなかったこと、少し前に使っていたテントだったため、安心していただけると考えています。今回は全員無事であったものの、運が悪ければ部員の体調が深刻に悪化する可能性もあり、今回のようなことを引き起こさないための対策が必要です。

【対策】

今回のようなことを起こさない対策としては、以下のことが考えられます。

- ・登山前に必ず備品のチェックをする
- ・3年生不在時でも部活動ができるよう次年度の幹部を予め決め、その人に指揮してもらう
- ・部活の情報共有をより密にする

既に次年度の幹部を現在の幹部の中で話し合っており、3学期が始まる頃には該当部員に打診をする予定です。また情報共有については、今まで使っていた部活連絡ツールとしてBandへの移行を始めています。

【感想】

今回は初めての合宿でありながら、準備不足によって失敗してしまいました。部員からも「悔しかった」「残念」といった声が出ており、非常に無念です。しかしながら初日の夕飯では非常に楽しい時間であり、全てが楽しくない思い出はありませんでした。次の合宿ではこの僅かながらの楽しい思い出と、酷く辛い経験を踏まえた上で、全てを楽しい時間にできるようにしたいと思います。

□令和5年体育会ワンダーフォーゲル部の状況について

昨年より現役の監督をやっております08年次西岡です。簡単ですが現役の活動について報告致します。現役は10月に世代交代を行い1年生の深見君が主将となりました。深見君は成蹊中学・高校の山岳部出身と

なります。現状ワングルはコロナ禍により知識・経験が途絶えてしまっていますが、山岳部時代の経験を活かし、立派に纏め上げてくれると期待しております。

今後は1年生5名が主体となり活動を行う予定です。高校山岳部出身者は3名所属しており今後の活動にも期待が持てます。ワングルとして大きな目標となる夏合宿は、八ヶ岳、谷川連峰馬蹄形、南アルプス等、縦走を伴う合宿を予定しております。目標に向けて3月からの山行を順次決めていき、無事に達成出来る様に努めていきます。

私が現役の頃と比べ、OBと現役が合う機会も限られて非常に残念ではありますが、今年桜祭りが久しぶりに開催されるとの事ですので、諸先輩方と現役のコミュニケーションが密に取れればと思います。OGOBの皆さんのご支援を何卒よろしくお願い致します。

□成蹊アルピニズムとワングル

今、大学では体育会クラブ OBOG 会の連合組織を作ろうという動きがあります。大学学生部の熊崎氏も加わり、成蹊大学の体育会クラブを OBOG 会の連合組織で応援し大学の魅力づくりに貢献する運動だと、私は解釈しています。我々体育会ワンダーフォーゲル部 OGOB 会(石楠花会)は、体育会所属のクラブの中で数少ない勝った負けたのないクラブ、大学山岳部がない現在、大学唯一の山や自然をフィールドとするクラブ、そして何よりも成蹊アルピニズムを継承する権利と義務を持つクラブの OB 会として、体育会 OBOG 会連合会に参画し、微力ながら成蹊大学の魅力作りのお手伝いをしたいと考えています。

そして私は体育会ワンダーフォーゲル部には『成蹊アルピニズムの継承者たれ』と激励したいと思います。ワングルが今までのような活動だけでなく、寮整備委員として虹芝寮の保守管理のお手伝いや成蹊小中学校等の自然を相手にする行事(林間学校や遠足、中高山岳部の合宿支援など)のお手伝いなど、自然を相手にする活動の主体になってほしいと思います。更に、これから成蹊大学で山登りをやりたいと思う学生の受け皿となり成蹊アルピニズムの継承者になってほしいと願っています。

昭和初期の谷川岳に虹芝寮を自分たちの手で作り、一の倉沢に初登攀記録を作った渡辺兵力氏などの大先輩は、アルピニズムの根底にあるのは『挑戦するココロ』だとおっしゃっていたそうです。また虹芝寮を利用する学生の間では『虹芝寮からチョモランマへ』という合言葉があり、これが成蹊アルピニズムを体現したキーワードだといいます。目指す山が高いから尊いのではなく、それぞれの立場や環境で挑戦することが大切で、その為にも山や自然に対する真摯な態度が大事であり、『常に謙虚たれ』ともおっしゃっていたそうです。

虹芝寮には『来た時よりも少しだけきれいにして帰る』という唯一の決め事、ルールがあります。無人の山小屋虹芝寮を守ってきたのは、山や自然に対しての謙虚な気持ちを持ち、定められたルールを守り、挑戦するココロを忘れない、そして何よりも“大切なことはすべて山と虹芝寮から学んだ”成蹊のアルピニストたちでした。ヒマラヤでも、縦走でも、藪漕ぎでも、ハイキングでも、今より少し上を目指す『挑戦するココロ』と山や自然と真摯に向き合う『謙虚な姿勢』が大切であることを教えてくれた虹芝寮。そこに集った若者たちこそ成蹊アルピニズムの継承者なのだと思います。

□虹芝寮 90周年

《虹芝寮は、令和 4(2022)年 9 月 15 日開寮 90 年を迎えました。

昭和 7(1932)年 9 月 13 日、当時の旧制高校生が発案から建設まで携わった夢の山小舎であり、実践を尊ぶ成蹊教育を体現するものでした。開寮以来現在まで登山・スキー・生物研究などに活用され、また多くの登山家達を育ててきました。昭和 53(1978)年には解体のうえ再建、そして平成 23(2011)年にも改修を行いました。

「来た時よりも少しだけきれいにして帰る。」お掃除哲学は利用者の誰もが心すべき虹芝寮唯一のルールです。令和 14(2032)年には 100 周年を迎えますが虹芝寮の伝統が引き継がれることを切に願い、90 年の節目に、記念小冊子を発行しました。 踏高会 柿沼恭介》

□虹芝寮 90周年記念品を進呈いたします。

昨年9月谷川岳虹芝寮が創建90周年を迎えたことにより当石楠花会では金10万円をお祝い金として踏高会へ贈呈いたしました。踏高会からは虹芝寮整備に尽力を頂いている当石楠花会会員の皆様へとして、90周年記念品(手拭い)と記念誌(「みちしるべー虹芝寮 90年の蹊」)を頂戴いたしました。

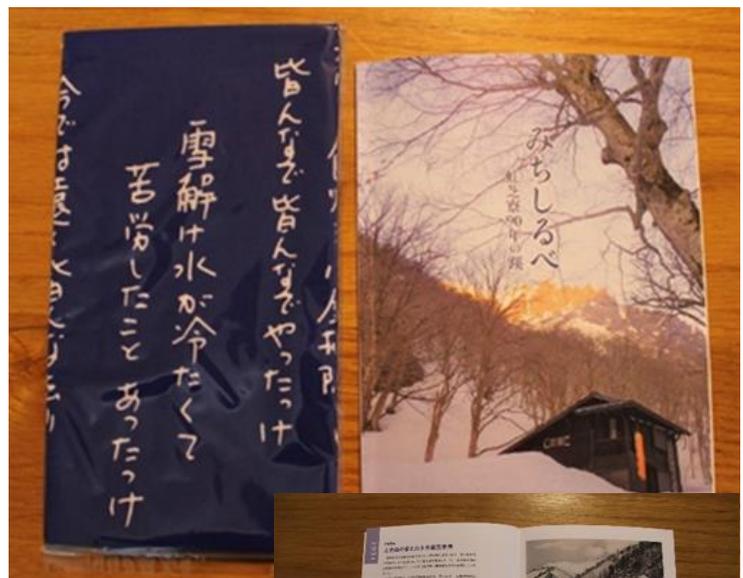
頂戴した虹芝寮 90 周年記念品は、年会費をお支払いいただいている石楠花会会員の皆様に進呈させていただきます。1 月中にはお手元にお届けする予定です。楽しみにお待ちください。

尚、記念品の数に限りがありますので、既に会費をお支払いいただいている会員を優先し、それ以外の方は先着順とさせていただきますのでご了承ください。ご希望の方はお早めに会費納入手続きをお願いします。

※記念品、記念誌の詳細は踏高会 HP にてご確認ください。<https://koshiryo.com/>



記念品のオリジナル手拭い



記念品のフォトブック⇒

92年次松浦君がデザインを担当



□石楠花会ギャラリー

☆寺島 明氏（69年次）作「戸隠連峰」2022年4月20日

「所沢市美術展」(於;所沢市市民文化センター)出品

『絶好の天候に恵まれました。平日とあって絵を描く自分の他にはカメラマンが3人のみ。手前の鏡池はまだ半分ほどは雪氷でした。』



□石楠花会会費・寄付金払い込みのお願い

石楠花会会費は年間3,000円です。石楠花会会費は現役学生の活動支援、万一の遭難対策、そして石楠花会を円滑に維持運営する為に不可欠な資金です。

昨年度末以降コロナウイルス禍の影響で定例行事も開催できず当会の収入が例年になく少ない状況です。コロナウイルス禍後のワンゲル活動再開のためにも、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

会費の払い込みは同封の払い込み用紙により『日本郵政』または『三菱UFJ銀行』口座経由にてお願いいたします。

尚、複数年払いをご希望の方は5年分15,000円を上限としてお支払いが出来ます。それ以上の金額はご寄付として処理させていただきますので何とぞご了承ください。払い込みいただいた方々の氏名は石楠花会通信紙上にてご報告いたします。

振込先:

【ゆうちょ銀行】口座番号「00120-4-358653」 加入者名『石楠花会』

【三菱UFJ銀行】西川口支店 普通口座 0610534 『石楠花会幹事 松田武雄』

□訃報

54年次 木村博太郎氏(石楠花会元会長) 令和4年4月ご逝去なされました

61年次 平野幸男氏 令和4年5月ご逝去なされました

70年次 若林泰平氏 令和4年5月ご逝去なされました

謹んで哀悼の意を表します 合掌

※ご連絡を頂戴した方のご霊前には石楠花会より生花をお供えさせていただきました

追悼 木村博太郎先輩

『木村博太郎君のご逝去を悼む』

今年も残り1ヶ月半ばとなり喪中はがきがぼちぼち届くようになった11月の某日、1枚の喪中はがきに驚いた。それは中学から高校と同じクラスであった木村君が4月に亡くなったという知らせであったからである。

木村君はたいへん物静かな人物で、いつそこに来ていたのか、気がついたら居たというようなたいへん静かな人物である。

従って、ワングルに何時入部したのか入部の経緯を私は知らない。

その後、奥様に電話で伺ったことでは、3年位前に心臓に動脈瘤ができ、それが入浴中に破裂したとすることで、それが命取りになったようである。

最近ではコロナ禍騒ぎで、ワングルの行事も中止となることが多いが、木村君はワングルの行事にはマメに出席されていたが、木村君から心臓に動脈瘤ができたという話は聞いたことがない。

もっとも話を聞いても如何ともしがたい事ではあるが。

今はただ木村君のご冥福をお祈りするばかりである。 合掌



56年次 竹村祐介

『弔辞』

木村先輩には成蹊大学体育会ワングーフォーゲル部の創立メンバーとして部の創建にご尽力いただきました。そして卒業後は石楠花会の会長職を長きにわたりお勤めいただきました。

成蹊ワングルが部員減少で辛い時、山の事故で仲間を失った悲しい時、そして毎年の桜祭や交歓会で現役部員との交流の場での楽しい時、どの場面でも常に我々OGOBの代表として先頭に立ち、支えてくださいました。

木村先輩とは2020年2月に神田で開催した現役部員との交歓会でお会いしたのが最後となりました。その際も木村先輩に乾杯のご発声と現役部員への激励のご挨拶をお願いしました。ビールを片手に多くの後輩たちと歓談していたことなどが昨日のことに思い出されます。

その後はコロナウイルス禍により桜祭などあらゆる会合が中止となり、木村先輩にご連絡を差し上げることもできませんでした。お元気な姿を拝見しお話をさせて頂くことが叶わず残念でなりません。

ここに成蹊大学体育会ワングーフォーゲル部 OGOB 会・石楠花会の全会員、及び現役部員を代表して厚くお礼を申し上げます。たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

石楠花会会長 65年次 花上光治